

優秀

すべての人が平等で幸せに過ごすために

相陽中学校 1年 小山^{こやま}優音^{ゆね}

「ハンセン病・隔離」という文字が新聞記事を読んでいるときに目に入ってきた。「隔離」という言葉にひきつけられて印象に残っているが、自分には全く関係の無い話だと思い記事のことはすぐに忘れてしまった。国語の授業で人権作文を書くことになり、テーマを探しているときに、ハンセン病の患者に対する隔離はなくなったものの、今でも周りの人からの偏見に苦しみ社会に復帰できていない人がいることを知った。偏見や差別は人権を侵害していることになる。新聞記事を見ていたにもかかわらず、この現状を初めて知ったということは、このときの私は苦しんでいる人たちの人権を無視していたということだ。これは差別を認めてしまっていることになる。同じ人間として、人権問題は一人一人が考えていかなければいけないことだと思う。なので私は、なぜ患者、元患者への差別が起きてしまうのか、どうすれば苦しむ人がいなくなるのか。このことについて考えていきたいと思う。

まず、偏見の元となっているハンセン病とは何なのか。ハンセン病とは皮膚と末梢神経を主な病変とする感染症でらい菌が原因となっている。感染経路は発病に繋がる感染原菌を多く持っている未治療患者からの飛沫感染といわれている。以前までは治らない病気として恐れられ感染者は療養所で隔離されていたが、今では特效薬によって完治することが分かり、感染力も極めて低いため強制的に隔離されることはなくなつた。それなのに今でも偏見や差別を受けている人がいるのはなぜなのだろうか。それは、治らない病気としてのハンセン病がまだ新しい情報と入れ替わっていないからではな

いのか。ハンセン病について正しく知れば偏見的な見方も少しは変わってくるはずだと思う。

もう一つ偏見的な見方をされて苦しんでいる人がいる病気がある。HIVウイルスが原因菌となっている「エイズ」だ。エイズは免疫力を破壊する病気である。今のところ治療法が見つかっていない。治療法が見つかっていないということからウイルスに感染することをおそれ、人々は感染者を差別的な目で見てしまっていた。しかしHIVは基本的に血液や精液、膣分泌液に多く含まれているため、主な感染経路は性的接触、血液感染、母子感染の3種類である。つまり、もし周りにいる人がHIVに感染したとしても、うつる心配はほぼないというわけだ。

このように恐ろしいと思われるいた病気も正しい情報を知ることができれば怖がらずにすむのだ。では何故、正しい情報を知らないまま偏見や差別などをしてしまうのだろうか。正しい情報を知ろうとしないわけではないのではなく、自分の知っていることが正しいと思っているからではないのか。私がハンセン病やHIVについて詳しく知る前はハンセン病はずっと治らない病気だと思っていた。しかし、今考えてみると自分だつて対策をしていないし、感染者だつてかかりたくてかかったわけではないということに気がついた。人は機会があれば間違えに気づくことが難しいのだ。ということは、気がついた人からどんどん広めていけば、理解してくれる人も増えるのではないか。世界中の全員が協力をし理解しあえば、偏見や差別をなくすることができるのではないか。つまり自分自身が意識をするだけでたくさんの人の人権を守ることができるとだ。

このような問題は新型コロナウイルスが流行している現代社会でもおこっていることだ。感染者本人だけでなく、その人の家族や住んでいる地域まで巻きこまれ、悲しい思いをしている人がたくさんいるのだ。これ以上苦しむ人を増やさないために、一人一人が病気について

正しく理解し、支え合っていけば、お互いが悲しい思いをせずには
と私は思う。世界中の人が偏見のない世界で幸せに過ごせるようにす
るために、まずは私自身が積極的に理解を深め伝えていく。そして、
改めて人権とは何なのかもう一度よく考え、自分にできることを探し
ていく。自分も人間である以上、「人権」とは永遠に関わっていくもの
なのだ。すべての人が平等な立場で過ごることができるように、他人
のためにも、自分のためにも、人権についてももっとと深めていけ
たら良いと思う。

